

LGBT理解を広め隊～私たちができるジェンダー解決の提案～

愛媛大学附属高校三年 正岡桃奈、山田絵美佳、谷岡花菜、武智櫻

はじめに ～LGBT～

LGBTとは、L=レズビアン(女性同性愛者)G=ゲイ(男性同性愛者)B=バイセクシャル(両性愛者)T=(心の性別と体の不一致)の頭文字をとって、性的マイノリティーの方を指す。日本はLGBT人口が全体の10%と他国と比較しても高い傾向にあるにもかかわらず、LGBTに関する法整備状況はOECD諸国35か国中34位と低い。SDGsのスローガン「No one will be left behind」の目標から、未来になくさなければならない課題として、5番・10番・11番・16番に該当している。

研究動機

愛媛大学附属高校では、昨年度、女子生徒の制服がスカートとスラックスの選択制に変わることが決定し、今年度から導入された。防寒、防犯のためであるが、LGBTに配慮した学校づくりになるのではないかと考えた。ジェンダーに関する考えを深め、校内に発信したいと思い研究を始めた。

制服選択制の導入

県内の中学校や高校で動きやすさや防寒を理由に、女子生徒のスラックスを導入する学校が増えている。また、「トランスジェンダー」の生徒への配慮にもつながっている。

制服に選択肢を設ける都道府県立高が少なくとも19都道府県の600校超に上ることが発表された(2020.12)。男女の性差を感じさせない制服の開発なども進んでおり、制服の見直しは今後も広がっていくであろう。

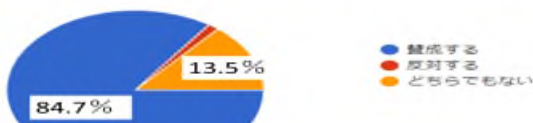


研究方法

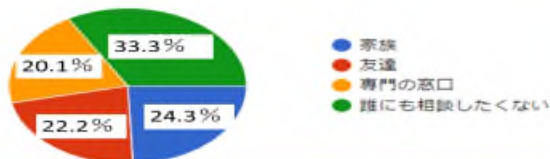
①アンケートの実施(2020.11)

本校の生徒、保護者502人にジェンダーに関するアンケートを実施した。

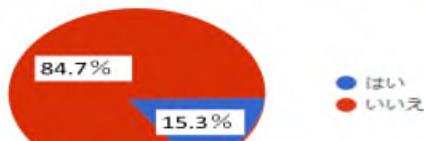
1. 女子の制服が選択制に変わることをごどう思いますか



2. 自分が性的少数者だと感じた時誰に相談しますか



3. 愛媛にジェンダーの方の交流会を行って施設を知っていますか



【問題点・気付き】

- 女子の制服が選択制になることに対して大多数が賛成している。→男女に対しての偏見が少しずつなくなっているのではないかと。
- 性的少数者であると気付いた時、誰にも相談しない人が一定数いる。→1人で抱え込んでしまう人が世のなかにもいるのではないかと。
- 大多数の人が交流を行っている施設を知らない。→性的マイノリティーの方への興味・関心が少ない人が多いのではないかと。

②レインボー愛媛の訪問(2020.12)

「レインボープライド愛媛」同性愛や性別に違和感を覚える人々など様々な性的少数者が自分らしく生きられる社会を目指し、四国・松山で活動しているNPO。当事者と家族、支援者のための常設の交流施設となっており、当事者の集まるイベントや勉強会の場所としても活用されている。



セクシャルが自分の中ではっきりしていない時に噂を流され、それを否定できない自分に葛藤していた。逃げ場もなく、いじめを受けた。相談できる場所が必要だった。



ゲイであることをずっと隠してきた。自分自身と向き合う中で、ありのままの自分を受け入れることを決意した。挑戦の生き方であり、負けてはいない。



先輩の言葉で自分がFTM(Female To Male)であることに気付いた。自分は病気でないこと分かり、わだかまりがなくなった。

- <LGBT当事者が社会に求めること>
 ・LGBT理解増進法を広めてほしい。
 →LGBTを理解する、認識を変えるきっかけになる
 →学校でジェンダー教育を取り入れる
 →法律がLGBT当事者と当事者でない人との仲介となる
 ・皆の問題として捉えてほしい。
 →理解者を増やす
 →社会の調和、支え合い
 ・自分自身が望む生き方ができる社会になってほしい。



↑レインボープライド愛媛の様子

「大人の認識を変えることで子どもの認識も変化もする。その人がその人のままで幸せに生きることが大事。」という言葉がとても心に残った。「一人一人が“〇〇らしさ”を選択でき、自分の意志で自由に生きることができる社会に変わってほしい。(正岡)



③SDGs×高校 ユースミーティングへの参加(2020.12.25)



全国から9校21チームが参加し、数組ずつのグループに分かれSDGsに関する取り組みを連隔同期型で発表し、意見を交換した。2021年度から始まる女子のスラックス導入をきっかけに、性的少数者の方々からお話を伺い、校内におけるジェンダーへの意識調査を実施、そして校内の多目的トイレのジェンダーフリー化への計画をまとめ、発表した。



同グループの長野県上田高校では、制服ではなく私服だという話を伺い、ジェンダーフリー化へのアプローチの一端を発見できた。また、参加した高校の中には女子生徒のネクタイ、リボンが選択制である姿が見受けられ、全国の高校で少しずつジェンダー平等への意識が高まっていると感じられた。

④トイレのジェンダーフリー化(2021.4)

SDGs×高校ユースミーティングでの発表から私たちに何かできることはないかと考え、本校にある多目的トイレ(1棟1階、4棟1階、体育館)を障害者だけでなく、男女誰もが使えるトイレにしようとした。この案を昨年度の生徒協議会に提出し、賛成多数で可決された。その後、トイレの愛称、ステッカーデザインを全校で募集した。60を超える応募があり、その中から9の愛称候補と6のステッカーデザインを選出し、4月の生徒協議会で話し合った。その結果、愛称は「ユニバーサルトイレ」、デザインは右のものに決定した。

